

植物防疫情報第8号

令和5年3月27日
岡山県植物防疫協会
岡山県病害虫防除所

麦類赤かび病の防除の徹底について

本年産麦類の生育は、現在のところ平年並で推移しています。県農業研究所作況試験データ（1月第4半旬播種）によると、大麦及び小麦とも生育は平年並またはやや早く推移しており、穂揃期も平年並であると予想されます（スカイゴールデン：4月第3半旬頃、小麦：4月第5半旬頃）。二条大麦では蒴殻が押し出されて来る時期（穂揃期の10日後ごろ）、小麦では開花期以降は本病に感染しやすい状況となり、曇雨天が続く場合には発生が助長されます。**本病に対する薬剤散布は病原菌の感染前が効果的であり、感染後では効果が劣りますので、散布適期を逃さないよう万全を期して下さい。**

（1）薬剤による防除法

薬剤散布は、大麦では穂揃期の7～10日後頃（蒴殻抽出期）の防除を必須とし、その前（7～10日）又はその後（7～10日）と組み合わせた、合計2回を基本とする。小麦では開花最盛期（出穂7日後頃）とその7～10日後の2回行う。下表から薬剤を選定し、農薬使用基準に従って散布する。

（2）防除上の参考事項

- ・大麦及び小麦の開花最盛期から20日を過ぎると防除効果が低下する。
- ・小麦を除く麦類では、トップジンM粉剤、水和剤及びゾルでは出穂期以降1回しか使用できないので注意する。
- ・収穫後は速やかに乾燥する。

（3）麦類赤かび病の防除薬剤

表1 無人航空機による散布の登録がある主な薬剤（令和5.3.20現在）

系統名	殺菌剤コード	薬剤名	農薬使用基準		
			散布量・希釈倍数	時期	回数
ベンゾイミダゾール	1	トップジンMゾル	8倍	収穫14日前まで(小麦)	3回以内（出穂期以降は2回）
				収穫21日前まで〔麦類(小麦を除く)〕	
E B I	3	シルバキュアフロアブル	16倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内
				収穫14日前まで(大麦)	
		チルト乳剤25	8倍	収穫7日前まで(小麦)	小麦:3回以内
				収穫21日前まで(大麦)	大麦:1回以内
ワークアップフロアブル	10～24倍	収穫7日前まで	3回以内		
S D H I	C2	ミラビスフロアブル	8～16倍	収穫7日前まで(小麦)	2回以内
				収穫14日前まで(大麦)	

殺菌剤コード：FRAC (<https://www.jpca.or.jp/labo/mechanism.html>) による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

表2 麦類赤かび病に登録がある主な薬剤（令和5.3.20現在）

系統名	殺菌剤コード	薬剤名	農薬使用基準		
			散布量・希釈倍数	時期	回数
無機硫黄	M2	サルファーゾル	400倍	発病前～発病初期	-
		コロナフロアブル	400倍	-	-
		イオウフロアブル	400～800倍	発病前～発病初期	-
ベンゾイミダゾール	1	トップジンM粉剤DL	3～4kg/10a(小麦)	収穫14日前まで	小麦: 3回以内 (出穂期以降は2回以内), 麦類(小麦を除く): 3回以内 (出穂期以降は1回以内)
			4kg/10a [麦類(小麦を除く)]		
		トップジンM水和剤	1,000～1,500倍	収穫14日前まで(小麦) 収穫30日前まで [麦類(小麦を除く)]	
			250倍 ※	収穫14日前まで(小麦)	
		トップジンMゾル	1,000～1,500倍(小麦)	収穫14日前まで	
			1,500倍 [麦類(小麦を除く)]		
E B I	3	トリフミン水和剤	1,000～2,000倍	収穫14日前まで	3回以内
		トリフミン乳剤(小麦)	1,000倍	収穫 3日前まで	
		シルバキュアフロアブル	2,000倍	収穫 7日前まで(小麦)	2回以内
			500倍 ※		
		ワークアップ粉剤DL	2,000倍	収穫14日前まで(大麦)	
			3kg/10a		
		ワークアップフロアブル	2,000～3,000倍	収穫 7日前まで	3回以内
			500～750倍 ※		
チルト乳剤25	1,000～2,000倍	収穫 3日前まで(小麦)	小麦:3回以内 大麦:1回以内		
		収穫21日前まで(大麦)			
ストロビルリン	11	ストロビーフロアブル	2,000～3,000倍	収穫14日前まで	3回以内
			500倍(小麦) ※		
SDHI	C2	ミラビスフロアブル	1,500～2,000倍	収穫 7日前まで(小麦)	2回以内
			250～500倍 ※		
			1,500～2,000倍	収穫14日前まで(大麦)	

殺菌剤コード：FRAC (<https://www.jcpa.or.jp/labo/mechanism.html>) による農薬有効成分の作用機構の分類。同一のFRACコードの薬剤については、耐性菌の発達を回避するため、連用を避ける。

注：※は散布水量が25L/10a。

農薬の使用に当たっては農薬使用基準を厳守するとともに、ドリフトに注意するなど、安全・適正に使用するようお願いします。

この情報は、岡山県病害虫防除所ホームページでも公開しています。

アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。

